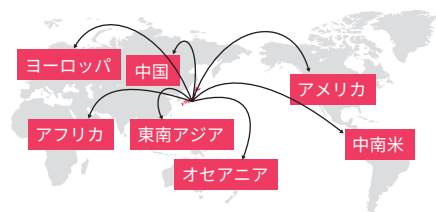


若いうちから世界を感じ、 世界への可能性を広げられる環境がここにある

PwCあらたの中でも、特に名古屋事務所らしい特徴といえば、グローバルに展開しているクライアントが多く、海外とのつながりが強いことです。名古屋で働きながらグローバル業務に携わるチャンスがたくさんあることは、名古屋事務所の大きな魅力です。海外PwCへ出向した経験を持つ職員が数多く在籍しているだけでなく、海外からの出向者も複数名受け入れているため、日常的に世界を感じられる環境になっています。

また、段階的に英語業務に触れるため、英語に不安がある方でも全く心配はありません。語学学習に向けたバックアップ制度も整っています。語学学校提供プログラム受講補助や、レベルチェックテスト受験補助、Global Session、オーストラリア短期アサイン、フィリピン短期留学、イングリッシュコーチング、各種ワークショップなど、多彩な研修プログラムも用意しており、若手職員から積極的に活用しています。

幅広い海外地域とのグローバル業務



語学留学



マネージャー 木村 英美

2019年、名古屋事務所内でノミネートして頂き、フィリピンへ2週間の語学留学をしました。現地では、毎日9時半から17時までの先生とのマンツーマンレッスンに加えて、全3回のプレゼンテーション、現地のビジネスマンとのランチセッションやディナーセッションとかなり盛りだくさんでした。また語学の学習だけでなく、価値観や考え方の違いにも触れることで、コミュニケーションやオープンマインドで

お互いを知ることの大切さを実感できました。留学前は英語を使う業務は避けたい気持ちもあったのですが、もっと話せるようになりたい、勉強を続けようと英語に対して前向きな気持ちになりました。

語学勉強の補助制度



アソシエイト 秋尾 文菜

学生時代の最後に1カ月ほどフィリピンへの留学経験があり、入社後も有給休暇を利用してカナダの語学学校に通ったりしていました。しかし自力で英語力を維持するのは難しいため、言語習得サポートを利用することにしました。このサポートコースは種類が豊富で、英会話学校への通学、オンライン英会話、リスニング重視コースなどがあります。私は無理なく継続しやすいリスニング重視コースのレッスンを受講中です。通勤中に聞き流したり、休日にはシャドーイング（音声聞いたあと、即座に復唱する勉強法）を行ったりして英語力、特にリスニング力の維持に努めています。毎月教本が送られてきて、内容が興味深く飽きないため、楽しく英語学習を続けることができています。

グローバルメンバーとの協働



アソシエイト 檜山 雄太郎

Verdiantoさんは私の入社前から私が関与するグローバル企業のチームの一人であり、主に海外子会社の監査人の管理をしていました。彼と一緒に仕事をする中で、わからないことをそのままにせず適時に相談をしながら、自身のアクションプランを明確にして仕事をする姿勢の大切さを学びました。私もこれまで以上に、わからないことをそのままにせず、自分がすべきことを明確にするよう留意して業務に励むようにしています。もともと海外志向はありましたが、実際に海外メンバーと仕事することで、その思いがより強くなりましたし、仕事のみならず、プライベートでも英語で海外の方とコミュニケーションをとりたいという気持ちも強くなりました。



マネージャー Verdianto Sugondo

2018年7月から2020年8月の約2年間PwCインドネシアから出向し、名古屋事務所のメンバーと共にグローバルコーディネーターとして世界中のチームとのコミュニケーションを担当していました。名古屋事務所のメンバーはとても親切で、自分たちが持っている知識や経験を惜しげもなく共有してくれました。名古屋事務所での多文化コラボレーションで、業務や仕事環境など多くのことを学ぶことができ、視野が広がったと思います。また、仕事だけでなく、言語を学んだり、一緒に観光地を訪れたり、飲み会に参加するなど、過ごした全ての経験が私のキャリアの中でとても素晴らしいものになりました。

海外赴任プログラム

日米の相違点を通じて改めて実感した コミュニケーションの大切さ

これまで自動車製造業をメインにしていたのですが、アソシエイトの時代に国内で一緒に仕事をしていたPwC米国のパートナーが現地で日系企業の監査を担当することになり、監査チームに日本人のマネージャーが必要だということで、私を呼んでくれました。現地では、同社現地法人を中心とした日系クライアントのサポートや、新規クライアント獲得のための土壌づくりとして、日本人コミュニティでのネットワーキング活動も積極的に行いました。

日本との相違点で特に印象的だったのがプロジェクトマネジメントの違いやコミュ

ニケーションの頻度です。とある監査チームでは、ミーティングを行う度に、“Please over communicate”という言葉がマネージャーがよく口にしていました。膨大な作業量の中で、コミュニケーション不足による見落としなどを防ぐためにこれを徹底していたのです。このマインドセットは今後も意識して持っておきたいと感じています。

Maxさんとは赴任先のダラスで出会いました。いつも優しく声を掛けてくれたり、話し相手になってくれており、私の心



Max Kuiper PwC米国からPwCあらた名古屋事務所へ赴任（2018.6～現在）

原田さんとは米国で一緒に仕事をしました。名古屋事務所のメンバーとは、私がPwC米国に在籍していた時からよく仕事していましたが、名古屋事務所に出向した際は、一緒に世

界中のクライアントの支援をすることで、PwCのグローバルネットワークの強みを改めて体験し、他にはない貴重な機会を得ることができました。



シニアマネージャー 原田 貴久

のよりどころのような存在でした。

名古屋事務所はグローバル企業のクライアントを多数有しているため、国際会計基準や複雑な会計問題、海外の子会社監査人とのコミュニケーションなど成長につながる機会が多数あります。今後はこの経験を生かして、グローバルにクライアントをサポートできる人材になりたいと考えています。

短期海外出向

国際色豊かな職場に 違和感なく溶け込むことができた

2008年に入社してからこれまで、海外に駐在中もしくは駐在経験のある先輩の話を知ったり、海外のPwCのメンバーと業務上のやり取りをするうちに、海外駐在に興味を抱くようになって、GM^{*}担当のパートナーに相談していました。かねてからの希望が叶ったオーストラリアへの短期出向では監査業務に従事し、数多くの上場企業、法定監査の企業に関わることができました。私が出向したアデレード事務所には日本人は私だけでしたが、中国、マレーシア、スリランカなどからの出向者が多数いる多国籍な職場でした。

オーストラリア特有かもしれませんが、朝早くから仕事を始めて17時にはだいたいの人が帰宅します。さらに金曜日の午後となるともう少し早く帰宅しますし、仕事とプライベートのメリハリや働きやすさを追求する姿勢など、異文化で多くのことを学びました。

監査業務についてはPwCの監査ガイドダンスや電子調査システム、会計基準もIFRSと同様であることなどから今までの経験を活かすことができ、チーム内の議論にも違和感なく入っていったので、比



Lily Gui PwC中国からPwCあらた名古屋事務所へ赴任（2018.7～2020.6）

名古屋事務所ではすぐにチームの一員として温かく迎えてもらい、うれしかったです。多くの職員が海外出向を経験されているので、これから海外で活躍したい方にはとても参考に

なる職場だと思います。岡田さんがこれから出向される蘇州は私の地元でもあるので、お待ちしております！



マネージャー 岡田 晃平

較的スムーズに現地の業務を進めることができたと自負しています。

今度は中国の蘇州に赴任予定ですが、帰任されたLilyさんがいらっしゃるので生活と仕事の両面でとても心強いですね。日本人コーディネーターとしてクライアントやPwCの人々と一緒に仕事をし、業務の幅を広げていきたいと考えています。

* Global Mobility: 世界各国のPwCオフィスに日本人プロフェッショナルが一定期間赴任する制度